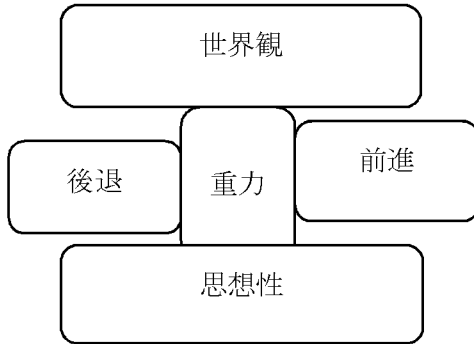


1)人間の変わらぬ価値性

1-1 活動性

前進性とは何か、後退性とは重力性とは？右側に言葉概念文学という要素を配置するか、左側には生物物理の因果性を映すか、単純に配置することが出来ない因果性に対面する。快不快、善悪美醜、真偽正負、



真理と調和		
不快、悪、醜	直接間接因果	快、善、美
安全安定安心	健全持続	繁栄成長自由
悲観	苦楽	楽観
経過	現況	仮説、空想
後退	重力	前進
政治	教育	経済
影響	付加価値	効果
生物、物理	哲学文化	言葉概念、文学
滅	因果	生

1-2 生命生態

生と滅、二項性、矛盾、思慮、概念、領域観、
良好な生を問い、作る思考と行為の習慣と性質が生まれる。

良好な生とは何か、悪しき生とは？健康、不健康とは？

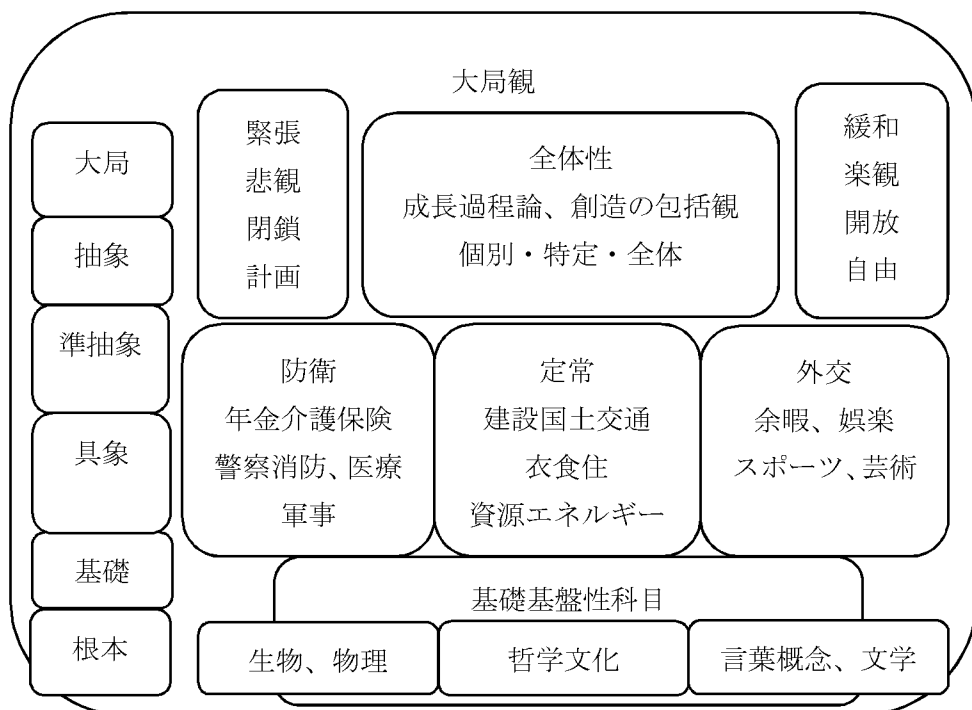
感性概念精神身体、相関、規則性、生命人間観、社会、自然、生態観、
根源性と根幹性と産出性(個別特定全体)、不動性と変動性、

1-3 創造の包括観・成長価値論

良い・悪い・両面の因果、具象準抽象抽象、因果の総体、創造の包括観、
成長過程論、結果と過程、因果、根本且つ全体大局と個別特定性、

1-4 人間学

どのような世界観が作り出されるか、理解と納得、共感と現象、
初動的基礎性の観点、全体大局観、生と知の再生産と持続、
大きな領域性と循環系、変わらぬ疑問と問いと答え、真理の模索探究、
このような観点と文脈が存続することに人間の変わらぬ価値性が映る。
人間とは何か、どうあるべきか、あるか、する。生命人間学、

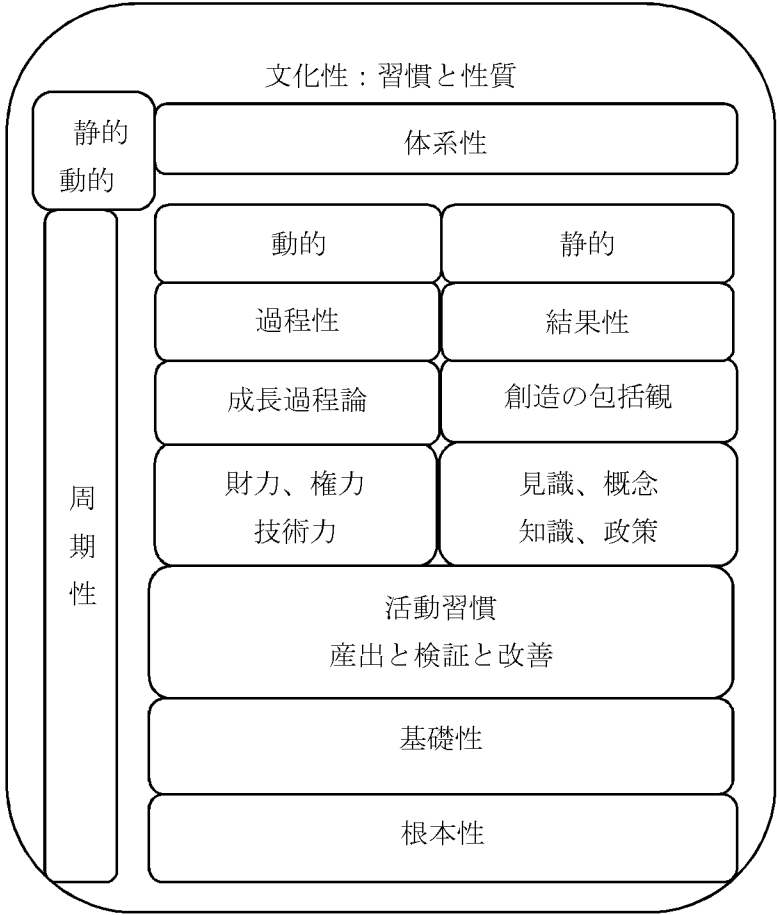


1-5 概念性と力

「見識、概念、知識、政策」と「財力、権力、技術力」の均衡に健全な創造性が現れる。力を得る過程に適正を欠くと見識等の概念性が作られず、力は暴力性に用いられる。「創造の包括観」と「成長過程論」という「結果性」と「過程性」の観点と相関を生む。

1-6 力自体の訴求性

妙に力自体を訴求し、何を意図してどのように力を用いるかという表現が示されず、自己の優位性の強調と支配従属を求める歪性が表面化する。根本性、基礎性、活動習慣、成長過程の欠陥が映る。詐欺盗み、暴力を習慣にした生産と創造の基調が作られる。



1-7 局所と構造と性質

領域の性質に広がり深まる。どのような社会性や人間性、領域性を求めるか。生の基礎的性格の見解が生まれる。局所現象と構造性と性質、

1-8 基礎科目性

生の初動的な面において、適正な概念が入り活動と習慣と性質を作る。基礎基盤性科目の良し悪しが問われる。この点を誤ると良好な基礎が無く二次三次の基準と運用の歪性を齎せる。習慣化された性質は容易に治らない。

1-9 因果の総体と定見性

人が人の上に立ち、何某かを主導したい欲求を生むことに際しある程度纏まりある因果の相関と定見性が望まれる。未だ考えが整わずに優位な配置に意識の大半がとられる姿は生の健康に不信感が高まる。